

# やぶなべ

青森県立青森高等学校生物部 発行

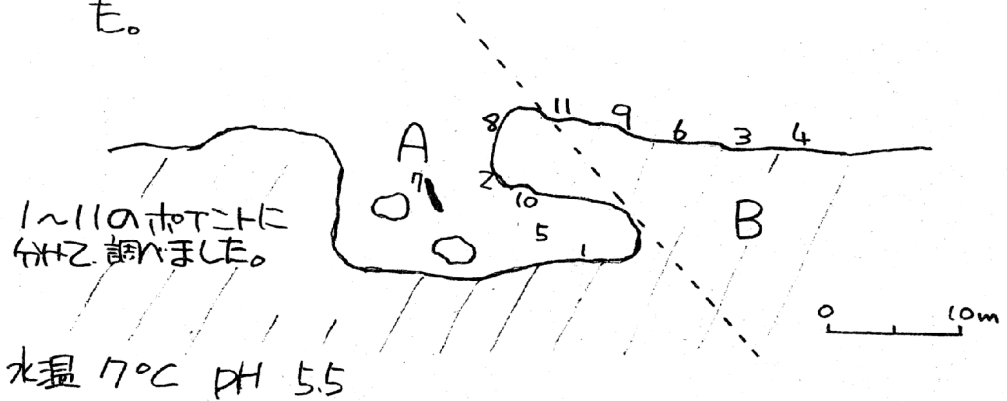
誌名	やぶなべ
号/発行年/頁	27 / 1983 / 35-39
タイトル	グダリ沼のプラナリア(8月7日)
著者名	山田祥子・高橋真紀子

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

8月7日(日) 7ダリ沼の調査 - アカイア -

8月6,7,8日の生物部キャノンで行った7ダリ沼の7ダリ沼のアカイアの調査を報告します。

方法: 50cm<sup>2</sup>の方形区を使ってその中にどのくらいのアカイアがいるかを調べました。種類別に11ヶ所の個体数を記入しました。



種類 \ ポイント	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ナミウスミ	1	16		1			1	6		6	
ナズメウスミ	16	5	7	5	3			3	6		53
キダシロナズメウスミ	1		2	10	1			3	2		31
ミヤマウスミ				1							
イデミオウスミ	2	2		2	3		1				2
合計	20	23	9	19	7	0	2	12	8	6	86

ナミウスミ 31      ミヤマウスミ 1  
 ナズメウスミ 98      イデミオウスミ 12  
 キダシロナズメウスミ 50

個体類はナミウスミシキカシロカズメウスミシカトんじん多いう  
です。個体数と場所を見ていくと種類によつてたいたいる  
場所がまゝまゝしているようです。

アフリカの種類の分布からみれば2つの区域に分けられると  
思います。図A、Bについて報告します。

### A付近 (1, 2, 5, 7, 8, 10ポイント)

A付近はほとんど日陰で、大きめの石には3つかけえ、ぬ  
るぬるしてわりと深い所(たいたい標準サイズの長く  
つで、きりきり歩けるくらい、20~30cm)と、浅く、  
小さい石が多くある所です。

深い所ではさすがに冷たく、大きな石をつかむのに  
時間がかかり、とても手かたひれ、採集するのに苦労し  
ました。水温が14℃などの所で採った場合もあつ  
たので、日陰で7℃では、大量に採れないのでは、と思  
っていたら、やはり、個体数は多くありませんでした。  
それでも種類別では、ナミウスミシカがたまっていました。  
イスミオオウスミシも若干いました。水の流れたゆるい  
ので、水の浄化がわるく、よこれに強いナミウスミシが多  
いのではないかと思います。大きな石には、たくさんつ  
いているだろうと期待したのですが、小さい石がないにも  
関わらず個体数は多くありませんでした。

浅い所では、たまた、5ポイントでキカシロカズメウスミ  
シカ1匹いたただけで、つき並みのナミウスミシとカズ

メウスムシの2種類がいました。カスメウスムシは図の  
ように入りこんでいる所に多くいました。あまり形は  
大きくありませんでした。小石ですので、石についている  
というよりも石と水の間を泳いでいるという感じで  
した。あまり採れない理由として、岸から多少離れ  
ていたこともあるようです。

まとめると、グタリ沼では日陰で水の深い所  
水が浅くても岸から離れている所は、アラリアは  
好まれないようです。

B付近(3.4.6.9.11ポット)

B付近は、日なたで直径2~6cmくらいの石がたくさんあ  
って浅い所です。この石は小さな穴がぽつぽつたくさんあ  
いているので、アラリアはこの穴に入るとして採集が尤  
変化した。特にキタシロカズメウスムシは小さいのが多か  
たので、採集できないのも少なくなりました。

ポットごとの個体数のデータを見てたのは、1の差があったと  
思います。3.4.6.9ポットでは、0~19個体で、11ポット  
が36個体です。B付近では、深い所にアラリアは少ない  
ようなので、岸の方へポットをおきました。同じ付近のポッ  
トなのに、なぜ、このように差があるかという採集の  
しかたが、ちがうのです。

はじめは方形区で場所をきめ、その中の石を1つずつ見て  
いたのですが、6ポットのようなアラリアが全く(?)い

ない所もまたのです。先輩の話ではクダリ沼にはたくさんアサギアケがいるということなので、しはないはずはないと思い、先生にきいてみました。先生はすぐと岸に近い所の石を見てみるようにいったので、さぐくためしてみました。実際その前よりは採集できましたが、まだ少ないようにした。私たちの手合いをしつめたMさんが見つけたので、岸に近い所を掘ってみるとアサギアケ水の流しと少しよたたくさんでくるとです。ほとんど、土にうまているような石にもついているのです。当日は11ポイントで36個体を採集でき上げです。当日でももっと時間をかけて、さぐくしてみれば、100個体はこつていたと思います。発見しつめたMさんには感謝いたします。

今までは、表面の石や、小枝、葉などを見てさがしていましたが、見えないような所もさがしてみるべきだということからかかしました。

なぜ、土の中にもくるとしているのでしょうか。沼の水温は、日陰、日なたにかかわらず、17°Cです。アサギアケは負の走光性を示すので、そのせいもあると思います。

たとしたら、夜になると、すぐすみの方からでくるとするのでしょうか。調べた時間はAM11:00~PM2:00ぐらいなので、他の時間も同じということもないと思います。

これからアサギアケの走性と、生息の環境について調べていきたいと思います。

A付近とB付近とを比べると

A付近では、ナミウスムシが多く、日陰で流れのゆるい所を好むようです。

B付近では、カヌメウスムシ、キタシロカヌメウスムシが多く、ナミウスムシよりも暗い所を好む性質があるのか、土の中にいます。

今回はポイントを選ぶ時点で環境について深く考えなかったため、おおざっぱにしね分けることができませんでした。そのため、確実な結果は得られなく、走性、環境についての疑問が残りました。

これから、この疑問を課題に活動していきたいと思います。

1年 山田 祥子  
高橋 真紀子